

修正済みの問題.....	1
既知の問題.....	2
Informatica グローバルカスタマサポート.....	3

データ統合の既知の制限事項とサードパーティの制限事項の詳細については、「データ統合リリースノート」を参照してください。コネクタに関する制限事項については、コネクタのリリースノートを参照してください。

新機能と改善点については、「更新情報」を参照してください。

## 修正済みの問題

次の表に、Informatica Intelligent Cloud Services<sup>SM</sup>データ統合の修正済みの問題を示します。すべての月次リリースに、修正済みの問題が含まれているわけではありません。それぞれの問題の説明に記載された (<リリース>) という値は、問題が修正されたリリースを表します。

CR	説明
CBDM-21302	<p>エラスティックサーバーを含む Secure Agent をあるランタイム環境から別のランタイム環境に移行する場合、次の状況では以前のエラスティックサーバーが終了しないことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- エラスティックサーバーで 1 つ以上の Secure Agent プロパティが変更されており、デフォルト構成を使用するランタイム環境に Secure Agent を移動する。</li><li>- エラスティックサーバーで Secure Agent のプロパティに変更がなく、デフォルト構成を使用しないランタイム環境に Secure Agent を移動する。</li><li>- 組織に Runtime Environment Selections ライセンスがあり、Secure Agent をあるランタイム環境から別のランタイム環境に移動する。</li></ul> <p>(2022.10.M リリース)</p>

## 既知の問題

次の表に、このリリースでの一般的な Informatica Intelligent Cloud Services データ統合の既知の問題を示します。それぞれの問題の説明に記載された (<リリース>) という値は、問題が報告されたリリースを表します。

CR	説明
ICAI-28091	ステータス API を使用して、サブタスクフローを含んだタスクフローのステータスをクエリすると、サブタスクフローがタスクフロー内のサブタスクとして、また個々のインスタンスとして応答に表示される。これにより、ステータス API 応答のエントリが重複する。(2022 年 2 月リリース)
CLDDI-16277	PowerExchange ソースのデータ統合 CDC 接続は、マッピングのルックアップトランスフォーメーションでオブジェクトとして選択できるが、これらの接続はルックアップトランスフォーメーションでは有効ではないため、選択できるようにするべきではない。(2022 年 10 月の問題)
CLDDI-10028	ファイルを段階的にロードするようにマッピングタスクを設定した場合、検証プロセスで、ソースがディレクトリであるかどうかを検証されない。(2021 年 11 月リリース)
CLDDI-9510	サーバーレスランタイム環境の <code>serverlessUserAgentConfig.yml</code> ファイルのパスに特殊文字が含まれている場合、サーバーレスランタイム環境の実行中に追加された JDBC V2 JAR ファイルの同期に失敗する。(2021 年 10 月リリース) 回避策: <code>serverlessUserAgentConfig.yml</code> ファイルの特殊文字をエスケープします。
CLDDI-9460	サーバーレスランタイム環境の <code>serverlessUserAgentConfig.yml</code> ファイルのパスにスペースが含まれている場合、サーバーレスランタイム環境の実行中に追加された JDBC V2 JAR ファイルの同期に失敗する。 回避策: <code>serverlessUserAgentConfig.yml</code> ファイルのスペースをエスケープします。(2021 年 10 月リリース)
CCORE-1069	サポートされていない接続のソースまたはターゲットのプッシュダウンの最適化をプレビューすると、プッシュダウンクエリは生成されず、プッシュダウンの最適化がサポートされていないことを示す警告が表示されない。(2022 年 5 月リリース)
CCON-43236	トランスフォーメーションが完全なプッシュダウンの最適化でサポートされていないが、マッピングでは部分的なプッシュダウンの最適化をサポートしているマッピングの完全なプッシュダウンの最適化をプレビューした場合に、データ統合が完全なプッシュダウンの最適化でマッピングを実行できないことを示す警告メッセージが表示されない。サポートされているトランスフォーメーションに対して生成されたソースプッシュダウンの最適化クエリのみが表示される。(2022 年 5 月リリース)
CCON-39124	ソーストランスフォーメーションが、最上位の JSON 配列を解析できない。 回避策: ソーストランスフォーメーションで読み取りを行う前に、最上位の配列を構造体要素でラップします。(2021 年 12 月リリース)
CBDM-22877	サーバーレスランタイム環境で実行される詳細モードでマッピングを監視する場合、要求され消費されたコンピューティングユニットの数を表示できない。 Administrator の <b>[メタリング]</b> ページで、組織が使用しているサーバーレスコンピューティングユニットの総数を確認できます。
CBDM-17051	API コレクションの応答スキーマに親フィールドと同じ名前を持つネストされた子フィールドがある場合、機械学習トランスフォーメーションの応答フィールドにメタデータが正しくプロパゲートされず、マッピングが失敗する。(2021 年 12 月リリース)

CR	説明
CBDM-16465	値が true または false の Boolean フィールドが、機械学習トランスフォーメーションでそれぞれ 1 または 0 の整数値に変換される。(2021 年 12 月リリース)
CBDM-16413	式で AES_GCM_ENCRYPT または AES_GCM_DECRYPT 関数を使用するマッピングを詳細モードで実行した場合、引数に無効なデータが含まれていると、マッピングが失敗する。 <b>[検証]</b> ボタンを押しても、引数データの内容の確認が実行されない。 回避策: 引数データが有効であることを確認するための詳細な構文と引数の規則については、「 <b>関数参照</b> 」を参照してください。または、代わりに AES_ENCRYPT 関数あるいは AES_DECRYPT 関数を使用することもできます。(2021 年 11 月リリース)

新機能と改善点については、「**更新情報**」を参照してください。

Secure Agent のサポート対象オペレーティングシステム、POD、サポート対象ブラウザ、ローカライズのサポート、コネクタのサポートの情報については、Informatica Network にある Informatica Intelligent Cloud Services の Product Availability Matrix (PAM)、および Informatica Connectivity PAM を参照してください。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices/overview>

## Informatica グローバルカスタマサポート

電話またはオンラインでカスタマサポートセンターに連絡できます。

オンラインサポートについては、Informatica Intelligent Cloud Services の【**サポート要求の送信**】をクリックしてください。またオンラインサポートを使用して問題を記録することもできます。オンラインサポートを利用するには、ログインが必要です。<https://network.informatica.com/welcome> でログイン要求できます。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト <https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html> に掲載されています。